

後期基本計画 平成31年度 施策方針書

政 策 : 05 学びにより充実した人生を送ることができるまち

基本施策 : 02 「生きる力」を育てる学校教育の充実

施 策 : 02 豊かな人間性や社会性の育成

施策担当職・氏名	学校教育指導課長 村田 浩隆
-----------------	----------------

1. 施策の実現状況を明らかにする

(1) 施策の内容

		<p>自他の生命の尊重、思いやりの心、郷土・滝沢の自然、伝統文化、食文化等を学ぶことで培われる郷土愛などの児童生徒の「豊かな人間性や社会性の育成」は、特別の教科・道徳をはじめ、各教科、総合的な学習の時間、復興教育など、あらゆる教育活動において育むことが大切です。</p> <p>また、児童生徒が生き生きと生活するためには、学校生活における友人関係や学業不振等で学校不適応・不登校に陥らないよう学校、家庭、関係機関が連携を図り、日々の学校生活が楽しく、充実したものとなるよう手立てを講じる必要があります。</p>
--	--	---

(2) 施策目標値の達成状況

No	この施策に関わる施策目標指標	基準値	上：戦略目標見込値／下：達成値				目標値	進捗状況
		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成34年度	進捗率(%)
1	暮らし 1年間無欠席の児童生徒の割合 単位 %以上	41.2	41.2	41.2	41.2	41.2	41.2	- 0.0
	単位							
	単位							

(3) 施策を構成する事務事業及び目標値の達成状況

No	事務事業名 事務事業目標指標	推移	平成29年度	平成30年度 (見込)	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	4年後
1	1689 総合的な学習の時間推進事業 外部講師派遣人数(講師謝金支払分) 単位 人	目標値 実績	50 0	50 0	52 -	52 -	52 -	52 -	52 -
2	3227 国際理解推進事業 小学校訪問回数 単位 回	目標値 実績	320 0	370 0	370 -	400 -	400 -	400 -	0 -
3	5052 不登校児童生徒解消対策事業 担当者会議の実施回数 単位 回	目標値 実績	2 0	2 0	2 -	2 -	2 -	2 -	2 -
	単位	目標値 実績							
	単位	目標値 実績							

後期基本計画 平成31年度 施策方針書

政 策 : 05 学びにより充実した人生を送ることができるまち

基本施策 : 02 「生きる力」を育てる学校教育の充実

施 策 : 02 豊かな人間性や社会性の育成

施策担当職・氏名 学校教育指導課長 村田 浩隆

2. 施策の実現に向けての現状を認識する

(1) 施策目標の進捗状況分析

「全国学力・学習状況調査」の人間としての心のありように関する児童生徒の意識調査によれば、「今住んでいる地域の行事に参加している」、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」などの項目で望ましい傾向が見られます。一方、「自分には良いところがある」、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思うか」の項目で、全国を下回る傾向がみられ、自己肯定感をもたせることに課題が見られます。

(2) 施策の実現に影響する社会環境変化

東日本大震災からの教育活動における復興に向けた取組が今後も重要であり、子どもたちが生き生きと生活しながら、復興に貢献できるような将来を担う人材育成が大切です。そのために、道徳教育、復興教育等、あらゆる教育活動を通して豊かな人間性や社会性の育成が目指されなければならないと考えます。

(3) 基本施策との関連性

基本施策「学校教育の充実」は、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目的として推進されます。本施策の豊かな人間性や社会性の育成は、「徳」にあたる施策であり、基本施策の目標達成に資するものと捉えられます。

3. 施策の実現に向けての取り組みを決定する

(1) 施策の達成（実現）に向けた基本計画内の取り組みと方針

自他の生命の尊重、思いやりの心、郷土・滝沢の自然、伝統文化、食文化等を学ぶことで培われる郷土愛などの児童生徒の「豊かな人間性や社会性の育成」を道徳の時間をはじめ、各教科、総合的な学習の時間、復興教育、市教育振興運動など、あらゆる教育活動において育むことを目指します。
また、児童生徒が生き生きと生活するためには、学校生活における友人関係や学業不振等で学校不適應・不登校に陥らないよう学校、家庭、関係機関が連携を図り、日々の学校生活が楽しく、充実したものとなるよう手立てを講じていきます。

(2) 基本計画内の取り組みと方針のうち、平成31年度の重点課題

学校不適應・不登校児童生徒の出現を可能な限り抑えるために、早期発見、組織的対応、家庭や関係諸機関との連携充実をこれまで以上に進めていくことが大切と考えます。

(3) 基本計画内方針及び平成31年度重点課題に基づく優先順位の考え方

日々の学校生活において、子どもたちが生き生きと生活する姿の実現のためには、学校教育活動全体の中で自己肯定感の育成を大切にしていくことが必要であると考えます。

そのうえで、日々の見取りを充実させ、学校不適應・不登校児童生徒の解消に向け、取組を充実させていく必要があります。

